

広島県感染症発生動向月報

〔広島県感染症予防研究調査会〕

(令和7年5月解析分)

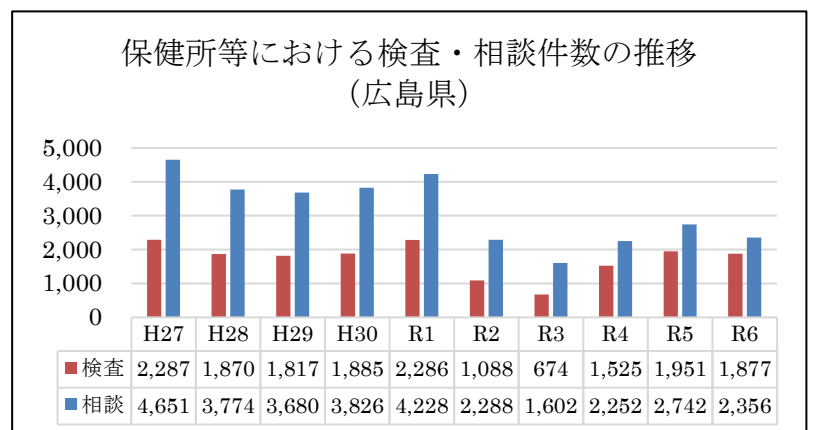
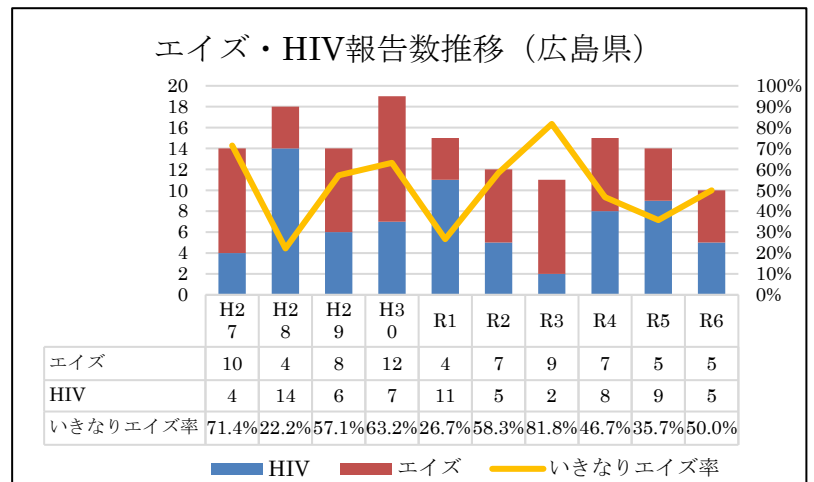
1 今月のトピックス

6月1日(土)から6月7日(金)は「HIV検査普及週間」です!!

県内の令和6年の新規エイズ患者数は5人(前年比±0)、新規HIV感染者数は5人(前年比-4)という状況でした。依然として、いきなりエイズ率が高い状況が続いており、HIVやエイズに関する正しい知識と適切な検査の実施が重要です。また、検査件数については新型コロナウイルス感染症の流行前の水準に回復しています。

HIVに感染しても自覚症状のない時期が数年間続くことが知られています。その間に感染を発見し治療することで、エイズ発症を予防したり、遅らせたりすることが可能です。

保健所検査や日曜検査、クリニック検査など、利便性の高い場所や時間帯に配慮した検査体制を構築しており、広島県のホームページから日程等を確認できます。検査を希望する場合は、事前に電話予約のうえ、受検してください。(※保健所検査については、梅毒検査も併せて実施しています。)



予防のポイント

HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、感染力が弱く性行為以外では日常の生活の中で感染する心配はありません。

正しい知識を持って、しっかりと対策をしましょう!

- 1) 性行為(精液・膣分泌液): 感染者との無防備な性行為は感染の可能性が高い
 - ・性交・オーラルセックス(口腔性交)の際は、必ずコンドームを使う
 - ・性器具の共用をしない
- 2) 血液を介して: 血液にふれることや、血液が体内に入ると感染の可能性が高まる
 - ・注射器具の共用をしない
- 3) 母親から赤ちゃんへ(母子感染): 妊娠中・出産時・授乳などによって子どもに感染することがある
 - ・予防措置[服薬、帝王切開、人工栄養(粉ミルク)での養育]を行う



広島県 HIV・エイズ

検索

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和7年 4月分(令和7年4月7日～令和7年5月4日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	17,670	47.25	-		11	突発性発しん	54	0.23	0.27	↗
2	インフルエンザ ※3	338	0.90	1.20	→	12	ヘルパンギーナ	4	0.02	0.08	
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	527	1.40	-	↘	13	流行性耳下腺炎	9	0.04	0.04	
4	RSウイルス感染症	160	0.69	0.73	↘	14	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.01	
5	咽頭結膜熱	93	0.40	0.35	↗	15	流行性角結膜炎	81	1.07	0.44	↘
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	576	2.48	0.97	↗	16	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
7	感染性胃腸炎	2,300	9.91	4.28	↘	17	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
8	水痘	18	0.08	0.08	↘	18	マイコプラズマ肺炎	36	0.45	0.03	↗
9	手足口病	23	0.10	0.18	↑	19	クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	
10	伝染性紅斑	87	0.38	0.04	↑	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	51	0.64	0.01	↗

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和7年 4月分(4月1日～4月30日)

No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記号	No	疾 患 名	月間 発生数	定点 当たり	過去5年 平均	発生 記 号
21	性器クラミジア感染症	55	2.50	3.31		25	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	87	4.35	3.07	
22	性器ヘルペスウイルス感染症	17	0.77	0.92		26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.05	0.13	
23	尖圭コンジローマ	15	0.68	0.88		27	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.00	
24	淋菌感染症	22	1.00	1.17		※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 手足口病 (0.05 → 0.10)
○急減疾患 伝染性紅斑 (0.21 → 0.38)
なし

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象7疾患)について、県内155の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～27	
定点数	36	58	19	22	20	155

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	22	結核(22)〔西部保健所(2)、西部東保健所(2)、東部保健所(5)、広島市保健所(8)、福山市保健所(5)〕
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
四類	6	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 E型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 つつが虫病(1)〔西部保健所(1)〕 レジオネラ症(3)〔西部保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕
五類	233	ウイルス性肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔福山市保健所(1)〕 急性脳炎(2)〔北部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(7)〔北部保健所(1)、広島市保健所(6)〕 水痘(入院例)(1)〔広島市保健所(1)〕 梅毒(20)〔西部東保健所(1)、東部保健所(3)、広島市保健所(11)、呉市保健所(2)、福山市保健所(3)〕 百日咳(198)〔西部保健所(21)、西部東保健所(28)、東部保健所(15)、北部保健所(8)、広島市保健所(100)、 呉市保健所(14)、福山市保健所(12)〕

一類・二類・三類・四類・五類(全数把握対象)感染症発生状況 (広島県)														
2025年4月30日 現在														
分類	感染症名	発 生 件 数												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
二類	結核	27	32	25	22									106
	小 計	27	32	25	22	0	0	0	0	0	0	0	0	106
三類	コレラ	0	3	0	0									3
	細菌性赤痢	0	0	1	0									1
	腸管出血性大腸菌感染症	3	4	4	2									13
	腸チフス	0	0	0	0									0
	パラチフス	0	0	0	0	0								0
	小 計	3	7	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	17
四類	E型肝炎	1	0	1	1									3
	A型肝炎	0	1	2	1									4
	エムボックス	0	0	0	0									0
	つつが虫病	0	0	0	1									1
	デング熱	1	1	1	0									3
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0									0
	日本紅斑熱	0	0	0	0									0
	日本脳炎	0	0	0	0									0
	マラリア	0	0	0	0									0
	レジオネラ症	6	2	5	3									16
	レプトスピラ症	0	0	0	0									0
	小 計	8	4	9	6	0	0	0	0	0	0	0	0	27
五類全数	アメーバ赤痢	0	1	2	0									3
	ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く。)	0	0	0	1									1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	5	3	1									14
	急性弛緩性麻痺	0	1	0	0									1
	急性脳炎	6	0	2	2									10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	0	1									2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	1	4	0									11
	後天性免疫不全症候群	0	2	1	1									4
	ジアルジア症	0	0	0	0									0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	2	1	1									7
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0									1
	侵襲性肺炎球菌感染症	8	4	6	7									25
	水痘(入院例)	0	1	0	1									2
	破傷風	0	0	1	0									1
	梅毒	22	17	17	20									76
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	1	0									1
	百日咳	15	11	35	198									259
	風しん	0	0	0	0									0
	播種性クリプトコックス症	1	0	0	0									1
	麻しん	0	0	0	0									0
	小 計	68	45	73	233	0	0	0	0	0	0	0	0	419
合 計		106	88	112	263	0	0	0	0	0	0	0	0	569

※ 一類～三類感染症は、疑似症患者及び無症状病原体保有者を含む。

【類別感染症名】

一類：	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
二類：	急性灰白髄炎(ポリオ)、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)
三類：	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
四類：	E型肝炎、ウエストナイル熱、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、エムボックス(サル痘)、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9)を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ペネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱
五類全数：	アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性脳炎、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例に限る)、先天性風しん症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症、百日咳、急性弛緩性麻痺

病原体（ウイルス）検出状況（県立総合技術研究所保健環境センター検査分）

検体採取期間：令和7年4月1日～5月20日

資料作成：令和7年5月21日

県立総合技術研究所 保健環境センター 保健研究部

1 県内医療機関からの受付検体数

患者数	検体数	陽性検体数	陰性検体数	検査中
224	254	141	91	22

2 四類感染症からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
ダニ類媒介感染症疑い	日本紅斑熱リケッチア	1	1	血液	R7. 5月	90代	西部
つつが虫病疑い	つつが虫病リケッチア Karp型	1	2	血液, 痂皮	R7. 4月	70代	西部
日本紅斑熱疑い	日本紅斑熱リケッチア	7	13	血液, 痂皮, 皮膚組織	R7. 5月	70代～80代	西部東, 東部, 福山市
	紅斑熱群リケッチア (<i>Rickettsia</i> sp. LON) ※	1	1	皮膚組織	R7. 5月	60代	北部
SFTS疑い	SFTSウイルス	1	1	血液	R7. 5月	60代	東部
A型肝炎 (国外輸入症例)	A型肝炎ウイルス 1A型	1	2	血清, 便	R7. 5月	20代	東部

※ この患者の血液は陰性、皮膚からのみの検出であった。

3 五類感染症 急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスの検出状況 (別紙)

4 五類感染症からの検出状況 (急性呼吸器感染症 (ARI) として提出された検体の中に含まれていた患者の検査結果の再掲を含む)

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	8	8	鼻咽頭, 咽頭	R7. 4月～5月	0～51	西部 (広島), 西部東, 東部
	ライノウイルス	1	1	咽頭	R7. 4月	14	東部
インフルエンザ	AH1pdm09型インフルエンザウイルス	7	7	鼻咽頭, 咽頭	R7. 4月	1～53	西部東, 東部, 東部 (福山)
	AH1pdm09型インフルエンザウイルス+アデノウイルスNT	1	1	鼻咽頭	R7. 4月	10	西部東
	AH1pdm09型インフルエンザウイルス+ライノウイルス	1	1	鼻咽頭	R7. 4月	4	東部 (福山)
	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	7	7	鼻咽頭, 咽頭	R7. 4月	8～16	西部東, 東部, 東部 (福山)
感染性胃腸炎	ノロウイルス GⅡ. 4 Sydney	1	1	便	R7. 4月	2	西部東
	ノロウイルス GⅡ. 17	1	1	便	R7. 4月	1	西部東
	サポウイルス	1	1	便	R7. 4月	1	西部東
咽頭結膜熱	アデノウイルスNT	3	3	鼻咽頭, 咽頭	R7. 4月～5月	1	西部東
RSウイルス感染症	RSウイルス B型	1	1	鼻咽頭	R7. 4月	1	西部東

5 その他の疾患からの検出状況

診断名	分離・検出ウイルス名	患者数	検体数	検体種類	検体採取年月	年齢	発生地区(保健所)
上気道炎 (ARIサーベイランス開始前の検体)	ライノウイルス	2	2	鼻咽頭	R7. 4月	0	西部東
下気道炎 (ARIサーベイランス開始前の検体)	ライノウイルス	1	1	鼻咽頭	R7. 4月	10	西部東

◆年間を通じた県内のウイルス検出情報 (ひろしまCDCホームページ内 月別・疾患別ウイルス検出情報)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/ari.html>

◆広島県内の急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスの流行状況 (ひろしまCDCホームページ内)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/ari.html>

6 保健所別検査依頼受付状況 (検体採取期間：令和7年4月1日～令和7年5月20日)

保健所地区	検体数	疾患名 (検体数)
西部	6	ダニ類媒介感染症疑い(3), 麻疹(成人)疑い(3)
西部(広島)	31	ダニ類媒介感染症疑い(3), 急性呼吸器感染症 (ARI) (28)
西部(呉)	0	
西部東	96	ダニ類媒介感染症疑い(3), 麻疹(成人)疑い(4), 麻疹(小児)疑い(3), 急性呼吸器感染症 (ARI) (69), 新型コロナウイルス感染症 (1) 感染性胃腸炎 (8), 咽頭結膜熱 (1), 上気道炎 (6), 下気道炎 (1)
東部	68	ダニ類媒介感染症疑い(18), A型肝炎 (2), 急性脳炎 (3), 急性呼吸器感染症 (ARI) (34), インフルエンザ (3), 新型コロナウイルス感染症 (5), 無菌性髄膜炎 (3)
東部(福山)	30	急性呼吸器感染症 (ARI) (30)
北部	7	ダニ類媒介感染症疑い(4), 無菌性髄膜炎 (3)
福山市	6	ダニ類媒介感染症疑い(6)
呉市	10	ダニ類媒介感染症疑い(10)

急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスで検出されたウイルス (2025年4月～5月)

報告週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週
	4/7～4/13	4/14～4/20	4/21～4/27	4/28～5/4	5/5～5/11	5/12～5/18
検査患者数	23	30	35	25	25	8
陽性患者数	16	20	26	19	18	7
AH1pdm09型インフルエンザウイルス	1	4	4			
AH3型インフルエンザウイルス						
B型インフルエンザウイルス(ヒトA系統)	2	1	5	1		
B型インフルエンザウイルス(山形系統)						
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	1	2		2		1
RSウイルス A型			1			
RSウイルス B型	1	1	3			
パラインフルエンザウイルス1型						
パラインフルエンザウイルス2型						
パラインフルエンザウイルス3型		2	3	6	7	
パラインフルエンザウイルス4型			1			
ライノウイルス/エンテロウイルス					6	4
ライノウイルス	6	9	5	8	3	
エンテロウイルスNT						
メタニューモウイルス	3	2	4	1	2	1
アデノウイルスNT	1	2	1	3	1	2
ヒトコロナウイルスHKU1						
ヒトコロナウイルスNL63	3	2	2	1	1	
ヒトコロナウイルス229E						
ヒトコロナウイルスOC43						

1人の患者から複数のウイルスが検出された症例が複数あります。

病原体（細菌）検出状況（県立総合技術研究所保健環境センター検査分）

資料作成：令和7年5月1日

対象期間：令和7年1月1日～令和7年4月30日に依頼されたもの

県立総合技術研究所 保健環境センター 保健研究部

1 保健所別検査依頼受付状況

保健所地区	菌株数	疾患名（菌株数）
西部	2	腸管出血性大腸菌感染症（1）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（1）
西部(広島)	0	
西部(呉)	0	
西部東	0	
東部	0	
東部(福山)	1	腸管出血性大腸菌感染症(1)
北部	2	腸管出血性大腸菌感染症（1）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（1）
福山市	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症（3）
呉市	3	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（3）
合計	11	

2 三類感染症に関わる菌株の性状

疾患名	診断 年月日	依頼 年月日	患者の 年齢	発生地区	菌種	性状
腸管出血性 大腸菌 感染症	R7. 1. 15	R7. 1. 21	94	東部(福山)	<i>Escherichia coli</i>	血清型：O112ac:H16、ペロ毒素型：VT2
	R7. 2. 15	R7. 2. 17	15	北部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：O157:H7、ペロ毒素型：VT2、MLVA型：25m0011
	R7. 1. 30	R7. 2. 13	43	西部	<i>Escherichia coli</i>	血清型：O26:H11、ペロ毒素型：VT1、MLVA型：25m2007

UT:型別不能

3 五類感染症に関わる菌株の性状

疾患名	診断 年月日	依頼 年月日	患者の 年齢	発生地区	菌種	性状
カルバペネム 耐性 腸内細菌目 細菌感染症	R7. 1. 7	R7. 1. 9	91	西部	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R6. 12. 28	R7. 1. 22	89	呉市	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R7. 1. 18	R7. 1. 27	66	北部	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R7. 2. 19	R7. 2. 27	80	呉市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
	R7. 3. 17	R7. 3. 21	87	呉市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	カルバペネマーゼ産生性：陰性、β-ラクタマーゼ産生性：AmpC、β-ラクタマーゼ遺伝子型：不検出
劇症型溶血性 レンサ球菌 感染症	R7. 1. 9	R7. 1. 14	56	福山市	<i>Streptococcus pyogenes</i>	Lancefield群別：A群、T血清型別：T1、emm型：emm1、発赤毒素遺伝子：speA、speB、speC、speF
	R7. 3. 10	R7. 3. 18	94	福山市	<i>Streptococcus pyogenes</i>	Lancefield群別：A群、T血清型別：TUT、emm型：emm89、発赤毒素遺伝子：speB、speF
	R7. 3. 10	R7. 3. 18	66	福山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	Lancefield群別：B群、T血清型別：TUT

UT：型別不能

3 コメント

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症：カルバペネマーゼ産生菌は検出されませんでした。

劇症型溶血性レンサ球菌：emm1が1株検出されました。今後、M1_{UK}の解析を実施する予定です。